

仙台市

地域活動の事例紹介

おらほ！のまちづくり

目次

地域誌「柏木界限物語」を活用して街を元気に【柏木地区】・・・1P
次の一歩 ～ 終わりは始まり ～

ふるさとふれあい森づくり「ゆうゆうの森」【上愛子地区】
・・・・・・・・・・・・・・・・・・2P

音楽によるまちづくり「みやぎの 原町本通ON楽祭」【原町地区】
・・・・・・・・・・・・・・・・・・3P

まちづくりの ヒント発見！？

地域では、いろんな
創意工夫をしながら、
まちづくりに取り組んで
います。ここにご紹介する
事例が皆さんの活動の参
考となればと思います。



お知らせ・・・

地域活動事例集
(2009年度)
市内15事例を掲載
配布中！
(問合せ：地域政策課)



地域づくり人材育成講座のご案内【主催：仙台市】

仙台市では、地域課題の解決に向けた市民の皆様による主体的な活動を支援するため、「地域づくり人材育成講座」を開催します。この講座では、地域課題解決に向けた実践的な手法をワークショップなどを通じて学びます。また、今後の活動に役立つ人と人とのつながりを広げる交流会を行います。ぜひご参加ください！

- ◆実施期間 1月下旬～2月
- ◆広報 市政だより（12月号）、仙台市ホームページ、チラシ（区役所など）
- ◆受付 11月22日～12月21日
- ◆アドレス <http://www.city.sendai.jp/shimin/ti-katsudou/kouza/index.html>
※昨年度の開催の様子
- ◆問合せ 市民局地域政策課（Tel.022-214-6129）



平成21年度の講座風景より

発行

- 青葉区役所まちづくり推進課
電話 022-225-7211（内線6136）
- 宮城野区役所まちづくり推進課
電話 022-291-2111（内線6136）
- 宮城総合支所まちづくり推進課
電話 022-392-2111（内線5131）
- 市民局地域政策課
電話 022-214-6129（直通）

地域誌『柏木界隈物語』を活用して街を元気に 次の一步 ～終わりは始まり～

地域誌『柏木界隈物語』を活用して街を元気にする会

地域の現在（いま）を残したい

地域誌『柏木界隈物語』を活用して街を元気にする会」は、平成17年度からの柏木市民センターの市民企画講座「地域誌編集事業」に参加した方々が、翌年「資料集」の作成をもって講座が終了した後、全員で新たに立ち上げた団体です。街の交流を進め、地域を元気にしたいと願い、各自が自分なりの力を出し合って活動を続けています。「講座での編集作業を進める中で、地域の現状や課題を知り、まず地域の皆様と情報を共有したいと思った」メンバーは、平

成19年、その「資料集」を発展させた「地域誌『柏木界隈物語』」を刊行しました。平成21年には改訂版も発行しています。この界隈は大半が戦火を免れたこともあり、戦前から残る寺社や史跡、民家が点在し、昔から住んでいる方々も多いので、この人達からの聞き取りや調査などによる地域の貴重な資料やお話が掲載されています。また、アンケートによる子ども達の声や地域の方々の原稿も掲載され、現在この界隈で暮らす方々の目線がリアルに反映されています。



活動している最中には辛いと感じることも、後から考えてみると、実は大切でやりがいのあった。

次の一步へ

「今考えてみると『柏木界隈物語』を発行することは本当に大変でしたが、その後の活動も試行錯誤の繰り返しで辛いものがあつた。しかし、街の人々と共に歩む活動が実は本当に大切であり、やりがいのあったものであつたと実感している」とおっしゃる村上会長。まず、地域誌を片手に「歴史散策」や「語り合いの会」が開かれました。会の名称とおり、地域誌を活用しての活動開始です。「歴史散策」では講師役の会員も参加者も共に、情報を分け合い、地域の新しい歴史的事実が判明することも。高齢者も

出番を得ていきいきと参加したそうです。また、「語り合いの会」はテーマのある井戸端会議のようなものですが、地域の人々の知りたい話を取り上げ、時には講師を招いての勉強会にもなります。日頃、自宅にこもりがちな高齢者の方々にも声をかけ、和気あいあいのうちに進められています。年2回程度発行の会報「柏木ウォッチング」では会の活動のお知らせや歴史記事、さらに地域の方々からの寄稿やリアルタイムな身近な話題を掲載し、外出できない高齢者に地域の風を届けると共に、その地域を知らない人には興味をもつきっかけにもなっています。

事例のまとめ

地域の有志達が積極的に活動し、子供からPTA・高齢者まであらゆる世代を巻き込んで地域活性化に取り組んでいます。



地道な活動から

地域誌の発行、歴史散策、語り合いの会、会報発行などの活動を進めていく中で、徐々に知名度が上がっていき、リピーターも増え、新たな行事の参加者も増えていきました。夏休みには例年、地域の歴史・文化の継承を狙った企画で子ども向けの行事をしますが、今年はリコーダー演奏などの音楽を取り入れたりして、子どもも大人も楽しめる企画を実施しました。夏休み行事の後は、子どもにスイカを振舞うのが恒例となっています。また、小学校の総合学習に協力し、四ツ谷用水の案内なども行ないました。

あとがき

「地域誌『柏木界隈物語』を活用して街を元気にする会」の方々は、とても元気で明るく、前向きな姿勢が前面に現れていて、取材中も笑顔が絶えませんでした。それにメンバーの方々はとても仲良く、活気に満ちていました。これからも歴史散策、語り合いの会の開催や会報の発行などの活動を継続的に行なっていくにつれ、ますます地域活性化の中心になっていくでしょう。あなたがこの記事を読んでいる間にも、メンバーの方々は次の活動の内容を考えているのかもしれません。



ふるさとふれあいの森づくり「ゆうゆうの森」

上愛子小学校父母教師会「お父さん委員会」



お父さんの活躍で広がる交流

上愛子小学校に隣接する森「ゆうゆうの森」は、小学校PTAのお父さん委員会が中心となって整備をして、小学校の子どもたちや地域住民で利用し、自然体験や地域交流の場としています。

森の整備事業でお父さん委員会の委員長として活動し、現在はPTA会長である萱場さんと、お父さん委員会と一緒に活動している鶴谷教頭先生からお話を聞きました。

「校長先生が、せっかく学校のそばに森があるんだから、整備して子どもたちのために使えるよ

うにしてみないか、とPTAに持ちかけてきたのが始まりです。」と萱場さん。

森の整備は力仕事が多いので、お父さん委員会が担当し、平成19年度から3年間は市の助成金を活用して、森の整備をしてきました。

1年目、森の下草刈り、遊歩道の整備。2年目、あずまや作り。3年目、炭焼き窯作り、ピザ窯作り。この他にも、椎茸栽培やカブトムシの飼育など、子どもたちと一緒に作業をしています。あずまやの落成式では、子どもたちが育て収穫したもち米で作ったもちをまいてお祝いしました。

学校に隣接する里山で自然を学び、地域交流・世代間交流

お父さん委員会には、大工さんをはじめいろんな職業の人がいて、一部助成金を活用しながらも、労力、道具類、重機、そして、材料まで、大部分を自前で行っています。

また、上愛子学びのコミュニティ(※)のネットワークを活用して、地域の方々にも参加を呼びかけ、森づくりでは、椎茸などのきのこの栽培に協力していただいたり、炭窯づくりの指導をいただいたりしました。特に、炭窯づくりでは地域の方に何度も指導を仰ぎ、やっと完成までこぎつけることができました。そして、この整備事業をきっかけに地域のいろいろな方とのネットワークも広がり、連携を深めることにつながったそうです。

お父さん同士の交流が子どもへも・・・

平日、お父さんたちは仕事、ということもあり、作業はほとんどが土・日となりますが、兼業農家が多いので、土・日は農作業で忙しく、活動に参加するのが大変な時もありました。でも、子どもたちのためと思ってがんばっているうちに、いつの間にか、自分たちも楽しんでいて、子ども以上に夢中になってやっていました。

また、整備事業をきっかけに親しくなったお父さん同士もいて、父親の交流から子どもたちも仲良くなり、親子でゆうゆうの森の整備作業を楽しんでいます。

※上愛子学びのコミュニティとは・・・

学校を核に、PTA・町内会・老人クラブ・体育振興会・交通安全協会・防犯協会・市民センター・社会福祉協議会が協働し、地域の子どもを支援するしくみ

事例のまとめ

学校、PTA、地域住民が協力して、ゆうゆうの森を整備し、地域コミュニティの場、子どもたちの環境学習と自然体験の場として活用しています。

一生懸命するだけではなく、楽しみながら・・・

「あずまやも炭焼き窯も、いいものを作ろうと一生懸命でしたし、実際、自慢できる良いものが出来ました。でも、一生懸命のなかにも遊びが必要だと感じ、お母さんから要望のあったピザ窯を作りました。炭焼き窯で炭を作り、その炭でピザを焼いてみんなでアツアツのピザを食べる。そんな楽しいイベントを行いながら、地域の方々との交流を深めたいと思っています。」と萱場さん。これから行われるイベントが楽しみです。

落成式そしてこれから・・・

今年の7月24日、夏休み親子キャンプに併せて、3年間のしめくくりとして、今までお世話になった地域の方々を招き、PTA会員、先生方、そして、子どもたちでゆうゆうの森落成記念式を行いました。式では炭焼き窯で作った炭を使い、ピザを焼いて皆さんに食べていただきました。

これからも地域の方々の協力をいただきながら、森の整備を進め、管理方法やルールなどを決めて、多くの方に森を利用してもらいたいとのことで、ゆうゆうの森はこれまで以上に地域コミュニティの場となるでしょう。



音楽によるまちづくり 「みやぎの 原町本通ON楽祭」

一主婦による呼びかけで 始まったまちづくり

「新旧住民が交流できる機会をつくりたかったんです」と語るのは「みやぎの 原町本通ON楽祭」の発起人である副実行委員長の八幡さん。「町内会活動に関わる若い世代が少なく、関わるきっかけも少ない」という現状もあり、なんとかしたいという思いから、自身の趣味である音楽でまちづくりができればと、毎年8月に地元で開催されている七夕まつりをステージとした「原町本通りジャズフェス計画」を立案。

八幡さんは、「行事のために住民を動員するのではなく、まずはコミュニケーション。そこから行事が生まれるという逆転の発想で」と語ります。

はじめは、地道な活動から始まりました。八幡さん自らが地域の町内会長や商工会会長へ説明に伺ったり、町内会の会合に出向き説明したりと理解と協力を求めました。そういった活動を約半年間行った頃、自分自身を知ってもらおうと、自身の趣味であるメタルバンドの演奏を披露。すると、「耳が痛くなるくらいパワーがあって、この人なら何かやってくれるのではな

実行委員は、それぞれの持ち味を活かして、楽器を手配してくれたり、学校にかけあい、物品や駐車場を借りてくれたりと、骨身を惜しまず協力してくれたそうです。その趣旨に賛同して、学生ボランティアも参加しています。

こうして始まった「みやぎの 原町本通ON楽祭」は今年の8月に2回目を開催することができました。まつり当日は、地元小学校の合唱団や地元中学校吹奏楽部、また地域外からの参加も見られ、地域の方々は思い思いに音楽を楽しんでいたようでした。

「原町本通り」は宮城野区役所北側の国道45号に沿うように東西に走るコミュニティ道路。この通り沿いは、仙台空襲をまぬがれた地域で、今では商店街に構える店の数が少なくなりましたが、藩政時代は、塩釜や松島から仙台へ入る大事な道路で、人と荷物の活発な往来があり、賑わいに満ちていました。

国道45号が新設されて以来、徐々に賑わいが薄れつつありますが、今日に至ってもいまだに往時の面影を残しています。近年は、マンションが建ち並び、新しい住民が増えている地域でもあります。

いかと地域の方から言っていただきました」と八幡さん。その後、改めて説明会を開催したところ、そんな良いことならと、その場で地域の主要なメンバーを含む実行委員会を発足することができました。

地域の人材を活かした まちづくり活動

その実行委員会は、今では22名に拡大しています。地域には音楽を趣味としている方も多く、協力体制を整えることができました。

これからの活動に向けて…

企画・準備を通して地域住民の関わり合いができ、また、子ども達の参加が新旧住民の交流のきっかけに繋がっています。

地域からは、またやって欲しいという意見が多く聞かれます。「今後は、町内会婦人部や子ども会の皆さんにも参加を呼びかけたいです。まずは、地域の方に楽しんでもらいたいですね」と八幡さん。「企画を練り直し、失敗をしつつもこのお祭りを浸透させていきたい。フォトコンテストもできたら」と意欲満々です。これからの活動に期待したいです。



誰でも参加できる
敷居が低いおまつりに
したい

事例のまとめ

地域住民の連携、地域の人材を活かした音楽によるまちづくりを通し、新旧住民の交流の機会を作っています。

